慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	基督教的共産団体
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1947
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.40, No.7/9 (1947. 9) ,p.389(23)- 425(59)
JaLC DOI	10.14991/001.19470901-0023
Abstract	
Notes	慶應義塾九十周年記念論文集 : 第一輯
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19470901-0023

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

以上福澤先生の學問論の大要を述べ、先生の學者としての矜持に論及したのである。先生が啓蒙思想家として極めて大なる功績を遺されたことはいふまでもないが、同時に學問に對して大なる信頼と期待とをもつて居られたことを親知することが出來たと思ふ。先生の哲學、科學論等については、その後の學界の發展と共に、勿論そのまゝに鵜呑みになすべきでもなく、又さうすることは、自ら以つて古をなせといふ先生の獨立論からいつても正しくない。しかし學問に對する先生の信念とその客觀的實證的態度においては、今なほ慶應義塾社中の者の遵守して然るべきものであらう。而して先生の學問に對する大なる期待に叛かざらんことを期すべきであらう。（昭和二十二年八月十日稿）

基督教的共産團體

高橋誠一郎

一

自然兒たる原始民族の單純素樸なる風習は、經々として社會改良に志す者をして財産の共有を主張せしめる主要なる基礎となる。洵に、多數の原始的社會の中に共産主義的慣習の一定形態が認められ得ることは蓋し疑ひの存しない所であらう。原始人は夙に武器、道具、飾具等の動産物件に個人所有權を認めたのであるが、而も、土地所有權の場合に於いては、總ての社會の根柢に横はるものが共産主義的制度であつたやうに見える。

狩獵民若しくは遊牧民の間に於いては、土地所有權は固より何等の存在理由をも有しなかつた。遊牧民の陸を越え海を渡つての驚く何く廣範圍に亙つた移動は、彼れ等の土地に關する不注意を物語るものである。動植物獲得に於いて人間勞働の演ずる役割が增加し、水草を追ふて轉住するの風が破れ、定住の習慣が起つて後も、土地所有權は容易に確立を見るに至らなかつた。土地は十分以上に存在し、且つ耕作方法は猶ほ原始的であつたが爲めに、耕作者は地味を涸渴すると共に直ちに之れを捨てゝ他を耕作した。屢々引用せらるゝが如く、（又、屢く論爭の種となつたが如く）、ユーリウス・ケーザルは其の『ガリア戰記』に於いて、グルマン民族中最大且つ最好戰的なる狩獵民スウェー

ヴイ(Suevi)に關して分立せる私有地なしと說き、(privati ac separati agri apud eos nihil est—De Bello Gallico, iv, 1.)、又、一般グルマン人に關して、公權威の代表者が血族團體に農地の用益權を割り當て、且つ毎年之れを轉換せしめたことを述べてゐる。(neque quisquam agri modum certum aut fines habet proprios, sed magistratus ac principes in annos singulos gentibus cognationibusque hominum quique una coierunt, quantum et quo loco visum est agri, attribuunt——ibid., vi, 22.)。是れよりして一百五十年の後に記されたタキツスの『ゲルマニア誌』に據れば、彼れ等は既に定住の民と化し、農業時代に入つて居つたのであるが、而も、農地を占有せるものは血族團體たる村全體であり、それは村民に割り當てられ、而して、彼れ等は年々其の農耕地を轉換して居つた。(Fenus agitare, et in usuras extendere, ignotum: ideoque magis servatur quàm si vetitum esset. Agri pro numero cultorem, ab universis per vices occupantur, quos mox inter se secundum dignationem partiuntur: facilitatem partiendi camparum spatia præstant. Arva per annos mutant; et superest ager——De moribus et populis Germaniae, 26.)、(沟に這箇『ゲルマニア誌』第二十六節の章句の意味は學界に於ける論爭の因と爲り、agri の文字の如きは arva に對するものであつて、分割せられ、割り當てられた耕作地に對置せられた割り當て若しくは分割せられざる牧草地、森林若しくは沼澤を意味すると解せられ、又 mutant の如きは一保有者より他の保有者への轉換を指すものではなくして、收穫地より休閑地への轉換、又は收穫の轉換と解せらる可きであると言ふ說すら存してはゐるが)。

人口の增加と共に、土地の使用は漸次集約的と爲り、牧場、森林、漁獵場は之れを共同に使用して居つたが、耕作地は定期的分配によつて一時村民をして之れを占有せしめるの風を生じたのである。再分配の期間は最初は農業的作業に取つて普通の週期たる一箇年であつたが、農業方法が進步し、耕作者等が其の勞働の成果を收めるが爲めに更らに多くの時を要するに至ると共に、漸次延長せられることゝ爲つた。而して、這般の期間は漸次不定と爲り、終には斯くの如き定期的割當は全く行はれざるに至つた。其の個別的利用權の下に置かれた地所を改良した者は、共同體の利益の爲めに彼れ等からして時々其の勞働に基ける餘剩價値を剝奪せられることを欲しないやうになつた。斯くして家族的所有權制度は發生を見ることゝなつた。以後、各家族は其の享受せる土地配分の絕對的所有者となつたのであるが、而も、處分權は猶ほ存在することがなかつたが故に、それは個人的財產ではなかつた。

斯くの如く所有權、殊に土地所有權の發達徐々なるを想ふ時、「土は富める者にも貧しき者にも共同に與へられた」と說く初期基督教父の言(Sanctus Ambrosius, De Nabuthe israelita, lib. i. c. 18.)は必ずしも空想的獨斷的とのみ稱し得ざるものがある。

二

ヘブライに於いても、所謂ヨベルの年の制度の行はれる限り、土地賣買は一種の貸借關係以上に出ることが出來なかつた。卽ち、此の「第五十年」には、人々は各々、其の所有に歸る可きものであつたからである。(『利未記』第二十五章第八—十六節)。神は「地を賣るには限りなく賣る可からず、地は我れの有なればなり」と示してゐた。(同第二十三節)。が之、土地の所有者は、六箇年の間は其の土地の上に播種し、收穫するの權利を有してゐるが、七年目には必ず之れを休養せしめて耕作を廢止し、而して此の年の內に土地の生產したものは主として貧民の權利に屬す可きものと定められてゐた。(『出埃及記』第二十三章第十、十一節『利未記』第二十五章第一—七節參照)。尙ほ、平年と雖も、田野の隅々までも悉く穫る可きではなく、壠圃に殘つた麥の株は刈り取る可きではなく、穀物の落穗は拾ふ可きではなく、橄欖樹は再び振り落す可きではなく、葡萄園は再び摘み取る可きではなく、殘つたもの、落ちたものは總べて寡婦と

孤兒と旅客とに屬す可きものであつた。（『利未記』第十九章第九、十節、第二十三章第二十二節、『申命記』第二十四章第十九—二十一節）。斯うしたヘブライ初期の制度は生産財の系統的集合所有の一部であるよりも寧ろ彼れ等が過去に於いて營んだ遊牧的生活の附帶的事實と看做す可きであらう。

ヘブライ人が素樸なる牧畜農耕の民の境涯を脱出した時、貧富の懸隔は次第に甚しきを加へ、人民の多數は深き悲みを以つて經濟的發達の跡を眺めなければならなかつた。往古の父權的同胞主義は其の跡を絶つた。古の種族的生活と集合財産の制度に復歸しようとする熱意は彼れ等の胸に溢れた。失はれた遊牧時代と種族的社會組織とは黄金時代として無産階級の眼に映じた。

西紀前第二世紀の頃に死海の西岸から深く内部に入つた荒原に本據を構へ、財貨の完全なる共有と首長に對する無條件的服從を行ふ半遊牧的共同生活を理想としたヘブライ人にエセネ(Essen)があつたと云はれてゐる。彼れ等は有德なる人々であつて、結婚は禁止されることがなかつたが、其の多數は性交を排斥し、完全なる共同消費を實行し、共同に居住し、共同に食事し、而して、倉庫と其の中に藏せられる食糧とは、被服類と共に、總べての人に屬した。彼れ等は彼れ等が自ら諸種の勞働によつて取得した貨幣を一個の被選保管人に交付した。「人世の荒海に無益の奪闘を爲すに倦み、疲れて此の集團に加入しようとする者は其の財貨を共同の財團に移した。彼れ等は賣買取引を行ふことなく、互に些かの報酬をも求めることがなく、又與へることもなく、自由に他人の欲する物を彼れに與へ、又自己の欲するものを他人から受けた。彼れ等は農耕を以つて主たる勞働となし、亦、手工をも營んだが、奢侈品及び武器の製造のみは嚴禁せられた。彼れ等は商業、製酒及び航海業に就いて考へたことがなかつた。彼れ等の間には一人の奴隷も存することがない。總べての者は自由であつて、相互の爲めに勞作する。彼れ等は又、自由の判斷に從つて憐憫と救助を行ふが爲めに備へることが出來た。（Philon Iudaeus, Quod Omnis Probus Liber, xii; Flavius Josephus, De Bello Judaico, II. viii; Antiquitatum Judaicarum, XVIII, i. 5.）昭和四年版拙著『經濟學前史』三四四—三八八頁參照）。

洗禮者はヨハネ及びイエスが果してエセネ教派に屬するものであつたか如何かは固より疑問であるが、兎に角、イエス處刑の後、エルサレムに集つた貧しい基督教團は暫くの間、同教派と等しく消費の方面に於いて一種の共産主義を實行して居つた觀がある。信徒は總べて一所に在つて總べての物を共有にし、動産不動産を賣り、面々の用に應じて之れを一同に分つた。彼れ等は、同心同意、一人も其の有てる物を己が物と云はず、總べて之れを共に有つた。（『使徒行傳』第二章第四十四、五節、第四章第三十二節）。此の聖書中の章句の意味は議論の的となることの多いものであるが、而も、此の原始基督教的共産主義なるものは固と好意的のものであり、自由なる愛の發動であつて、制度として强制せられたものではなかつた。加之、彼れ等原始基督教徒の間には共同經濟的生産の行はれた事實を聞かない。彼れ等は共同に使用したのであつて、共同に所有したのではなかつた。

三

基督教は歐洲の經濟的發達が未だ幼稚であつた間に、確く歐洲の民心を捉へることが出來たのである。然しながら、單純なる共産主義は基督教の發展と共に、消滅す可き運命を有してゐた。前述せるが如き使徒時代に試みられた特殊の共産主義は、永く基督教的社會の理想的形態として仰望せられはしたが、而も、そは幾許ならずして基督教會の主流から消え失せて、實際に之れを復活せしめようとするの提言は拒否せられたのである。唯だ相次いで生じた基督教的共同團體が、此の疑問の多い『使徒行傳』の章句を文字通りに解釋して之れを實行に移さうとしたに過ぎない。

基督教が羅馬の國教と化し、教會の領地取得に對して法律上の認可が與へられ、高い僧職に任る者が巨額の教會財

産の保管者として俗界に於ける上層階級と同化するに至つた時、多數の敬虔なる教徒は教會が異教的社會と融合しつつあるを嫌忌して、清淨なる生活を送るが爲めに田園に退隱した。此の世に於ける個人的自由と自己表現とを奪はれた人々は、唯だ一向に死の彼方なる生活に憧憬した。彼れ等は遁世によつて永遠の天惠を確保しようとした。其の實際的效果は明かに非社會的であつた。然も、希臘語の「孤獨」（モノス）に發し、宗教的冥想に耽り、寂然獨居して宗教的勒行を營むが爲めに此の世から退隱した人を指す言葉であつた修道僧（モンク）は、後には、宗教的祈禱と勒行を營むが爲めに形成せられ而して貧窮と獨身と上長に對する從順の誓約によつて結束せられた人々の共同體若しくは講社の成員を指すものとなつた。

西紀五百四十三年三月二十一日に死んだメルシアの聖ベネディクツス（S. Benedictus）は單に放肆淫蕩なる羅馬からばかりでなく、此の世から隱遁して修道僧と爲ることを決意し、サビニ諸丘に逃避し、羅馬から四十哩を隔てたスビアコなるアニオ河畔のネロの人口湖を見渡すサクロ・スペロ洞窟中に其の身を隱し、三年間此處に孤獨の修道士として自給的生活を送つたのであるが、其の後、彼れ自身の初めの想念に其の脊を向け、啻だに彼れ自身によつて支配せられる一修道院のみならず、其の附近に彼れの統制下に在る十二の他の修道院をも建設するに至つた。各修道院は其の共同體の成員によつて終身の任期を以つて選出せられ絶對權を行使する院長によつて統治せられる。各教團は其の夫々の開祖によつて設けられた別箇特有の戒律を有して居つたのであるが、而も、是れ等のものは總べて共通なる一定の特質を有して居つた。總べての修道僧に對しては獨身、貧窮及び從順の三誓約のみならず、終生自己の修道院定住（stabilitas loci）の誓約が要求せられた。斯くの如きものが所謂「ベネディクツス教團の戒律」（Regula Benedicti）である。是れ等のものゝ外、更らに勞作の誓約が存して居つたと稱せらるゝを得ること如くである。聖ベネディクツスの修道院生活の計畫に從へば、勒行若しくは聖書及び諸教父の著作の讀誦の執れよりも著しく多くの時間が日々勞作に費された。而して、這般の勞作は、耕作又は園藝若しくは造營に關する肉體的のものであつた。這箇勞作の要素は修道院生活の完成上必要缺く可からざる部分たる可く企圖せられ、單なる業務ではなくして修道僧の神へのかしづきの眞個の要素であつて、日々六時間乃至七時間が之れに捧げられた。それは晨朝の讀經後、正午若しくは午後三時に互り、又四旬齋の間は日沒にすら及んで不斷に行はれた。修道僧は今や「汝等天空の鳥を見よ、播くことなく、刈ることなく、倉に收めることなきに、汝等の天の父は之れを養ひ給ふ。汝等は之れよりも遙かに優れるに非ずや」（『馬太傳』第六章第二十六章）なる基督の語よりも、寧ろ「我れ汝等の中に在りし時、人若し働く事を否まば亦、食す可からずと命じたり」（『帖撒羅尼迦後書』第三章第十節）と云へる聖パウロの其れを彼れ等の箴言とするに至つたのである。彼れ等は實際上外部より何物をも購ふことなく、共同團體の所要に應ずるが爲めに必要なる殆んどあらゆる物を生産したばかりでなく、從者、乞食、巡禮及び旅客を給養す可き餘剩をすら生産するの常であつた。

修道僧は、實に、宗教的基礎の上に建設せられ宗教的動機によつて鼓舞せられる生産的共同團體であつた。其の內部に於いては如何に分業が複雜に行はれたとしても、其の成員は自己の利益の爲めに勞作するのではなくして、此の小共同團體を維持し發達せしめるが爲めに努力するものであつた。而して、宗教的要素は實に其の存在の核心であつた。

然しながら、組織的經濟生活としての僧院の成功其の者は之れが宗教的性質を脅すものであつた。多數の修道院は卓越せる産業團體となつた。而して、社會的秩序の恢復に連れて、遠隔地方間の交通が次第に發達すると共に、交易は自から産業の進歩せる地點に集中するの傾向があつた。斯くて、修道院は又、交易の便宜を有するに至つた。斯く

の如くして開かれた新しい機運は修道院生活の本質を變化させなければ已まなかつた。修道院は財貨の購入を行ふことが出來るやうになつて、自給自足的共同團體たるの實を失つた。分業の機會は增加して、修道僧は其の農業的勞働を隸民若しくは半隸民に委ねることが出來た。其の他の部門の肉體的勞働は大部分講中の俗人の手に遂行せられて、修道僧は次第に其の力を文學・美術及び寫本の方面に專らならしめるに至り、通常の肉體的業務は彼れ等の日常生活上重要なる地位を占めることがないやうになつた。第十一世紀に於けるベネディクツス教團の大修道院は現世から退隱した自足的生活を表示することがないやうになつた。蓋し、是等のものを中心として繁盛なる商的團體の發生を見たが爲である。

四

都市經濟の發達に伴ひ次第に分化し複雜化して行く社會的經濟的狀態の變化に連れ、一方には基督教の教旨を此の新たなる社會的事實と調和せしめようとする宗教的倫理的傳導師及び改革家を出すと共に、他方には亦、其の嚴烈なる教義によつて之れを否定し、使徒的窮乏生活に復歸しようとするものを生ずるに至つた。共産主義的生活を企圖せる中世的宗派の中には、最も無殘なる迫害を受けて第十三世紀末までに殆んど全く消滅してしまつたアルビ(Albi)若しくはカタリ(Cathari)宗徒、凡そ一千百七十年の頃にペトルス・ヴァルデス(Petrus Valdes 或ひは Waldo) の指導の下に里昂に起つたヴァルド宗徒、第十四世紀に於ける北部佛蘭西及び獨逸のベガル(Beghards)、後に佛蘭西に弘まつた伊太利亞アルヴァノのアポストリキ(Apostolici)、英國ノアフォークのウィクリフ教徒(Lollards)、西フランダーズのアリューヅに於ける機織り托鉢僧、低陸聯邦に於ける共同生活友愛會、北部伊太利亞のフミリアチ(Humiliati)、第十五世紀のボヘミアに於けるタボア宗徒(Taborites)、第十六世紀に於けるモラヴィアの同胞講社及び再洗禮教徒等を數へることが出來る。是れ等諸宗派の共産主義は主として消費の方面に存したのであるが、而も、或る場合に於いては生産に亦、共産主義的組織及び統制に取つて適當なる範疇と看做されたるの觀がある。

吾人は又、中世に於ける大宗教的共産團體の華々しい活動を行つた時代が終りを告げた頃、宗教的共産主義史上に重要なる地位を占むるの觀ある他の講團が生れたことを記さなければならぬ。南米パラグワイアに於ける耶蘇會派(Societas Jesus)の「共和國」(Republica)が是である。

果てしのない南米の大河をアースーシーオーンまで漕ぎ上つた耶蘇會派の教父達は、軈がて Guaranis と稱せられた人民の住んでゐる處女林の中にしやにむにもぐり込んで行つた。彼れ等は一千六百〇二年に Loretto の最初の植民地を建設し、二年の後には San Ignacio と名附けられた第二のものを建設した。軈がて、三十一の宣教區の存在を見るに至つた。是れ等のものは西班牙王によつて亞米利加に於ける軍事的冒險者卽ち conquistadores に與へられた土地及び印度人の住民の兩者を包含する家産の名稱 encomienda を以つて呼ばれた。是れ等のものゝ中最重要なるものは八千の住民を有したのであるが、而も、平均人口は僅かに三千に過ぎなかつた。十五萬を起えることがなかつた總人口は凡そ佛蘭西に等しい地域の上に散在して居つたのである。

是れ等植民地の政治は一見民主的なるの觀があつたが、實際には教政的であつた。而も、其の人民の經濟的地位は修道院の其れに倣つた共産主義的なものではなかつた。植民地の住民は共同に生活することなく、各家族は自己の家屋を有し、其の家計を維持するに足る田園を交付せられ、自己の爲めに之れを耕作した。然しながら、無償を以つて交付せられる地所及び家屋は單に使用の爲めにのみ許與せられる所であつて、所有の爲めではなかつた。斯くの如く

是れ等各個の間に分割せらるる地所の外に、全共同體の爲めに保留せらるゝ廣大なる地域、「神の田園」が存して居つた。其の目的は貧民、寡婦、老人、孤兒及び何等かの理由によつて働くこと能はざる者の所要を滿すに在つた。是れ等共同田園は、少くとも一部分は兒童の手によつて耕作せられたものであらう。母國に對して行はれる輕微の支拂を除いては、是れ等共同地の耕作の外他に何等の課税も存することがなかつた。

彼れ等の村落は孰れも中央に方形の廣場があり、其の三方には家屋、一方に寺院と公共倉庫が存した。是れ等の植民地内部には何等の貨幣も存することがなく、又、私的店舗の存在することもなく、共同田園の收穫は公共倉庫に收められ、之れを要求する者に交付せられた。外部との通商は唯り毎年の旅隊によつてのみ行はれた。植民地は其の消費する所のものゝ殆んど全部を生産し、其の生産せる殆んど總てを消費した。住民は自己及び其の生存に取つて十分なるものを生産した際には休養したが爲めに、輸出す可き殆んど何等の餘剩も存することがなかつた。住民の中から選拔せられて毎年ブウェーノス・アイレス、サンタ・フェー、パナマ等に過剩貨物を持參して所要物を持ち歸る旅隊の主たる輸出物は有名なマテ茶(mate)即ち落霜紅屬の一種の葉を乾したもの）の限定せられた量であつて、其の他には小量の煙草、綿織物、皮革があつた。旅行は往復數ケ月に亙る。旅行の終りに派遣隊は是れ等の物品を賣つて、取得した貨幣で先づ第一に西班牙の租税を支拂ひ、次いで、殘餘のものを以つて教會の附屬物品、樂器及び道具の如き金屬製品等の少數の所要物を購入する。斯くして、是れ等の集團は道德、儀禮、演戲、舞踊及び音樂の豐かな文化の發育した自給自足に徹した生活を送つたのである。

前述の如く初め三十一の宣教區(reductiones)が設置せられた時、是れ等のものは凡そ三千の平均人口を有し、總人口は約十萬を算し、其の後次第に增加して十四萬四千人に達したのであるが、一千七百三十二年に天然痘が猖獗を極めた際、約三分の一を奪ひ去られて再び十萬に減少した。彼れ等は生に對する執着力と病に對する抵抗力とを缺いてゐた。彼れ等は此の世の人口が減少を來した時、斯くの如き現世的損失によつて天國は一層豐富となつたものと考へて自ら慰められるものがあつたと言はれてゐる。

此の教政的に整備せられたパラグワイアに於ける聯蘇會派の「共和國」は共産主義と協同主義とを混合した相貌を具して一世紀半の間其の存在を保つた。此の共和國が滅亡するに至つたのは、其の組織に附隨せる弱點に因るよりも寧ろ外部的壓力に由るものであつた。彼れ等は早く一千六百二十九年、其の最初の植民地が建設せられて未だ幾許ならざるに、サン・ポウロ(São Paulo)の匪徒の襲來を受け、住民の多數は虐殺せられ、其の一千五百人の男女老幼は一緒に括られて、約九ケ月に亙る長い苦難の旅路を經てサン・ポウロに拉し去られた。匪徒は之れに味を占めて、屢々其の遠征を繰り返した。聯蘇會員は西班牙政府に請ふて武裝することを許され、十年の後、即ち一千六百三十九年、匪徒が復も襲來した時、敗然として戰つて、完全に之れを打ち破つた。ポウロ人の總べては或ひは殺され、或ひは捕へられた。宣教區長ディエーゴ・デ・アルファラ(Diego de Alfara)は戰場に斂れた。一千七百四十八年、西葡兩國間に締結せられた所謂「境界條約」によつて、長き紛爭地域 Nova Colonia は西班牙に讓渡せられ、之れに代へて最も繁盛なる七宣教區は葡萄牙に屬することとなつた。是れ等教區の住民はウルグワイ河を渡つて西班牙領に入ることを喜ばず、又、葡萄牙領に殘存することを欲しなかつた。彼れ等は一千七百五十四年から五年に亙つて抗拒し續けた。略ゝ同數の西班牙人と葡萄牙人より成る三千人の聯合軍は武力を以つて彼れ等を遂ひ出すが爲めに派遣せられた。西班牙に對して忠實であつた聯蘇會教父等は土民を指揮することがなかつた。總數二千二百人のグワラニース人は唯だ一戰に敗れて、其の一千五百人は死し其百人乃至百五十人は捕虜となり、其の他の者は離散した。翌五十二年、

西葡兩國妥協の結果、新境界は抹消せられ、教父及び土人は歸還を求められた。而も、耶蘇會員の勢力は各地に於いて衰退し、到る所に壓迫せられ、驅逐せられたのである。葡萄牙政府は一千七百五十九年、佛蘭西政府は同六十四年聯蘇會員の放逐を命じ、同六十七年には之れに倣つて西班牙が其の南米に於ける全領土から耶蘇會員を放逐す可きを命じた。パラウグイアの耶蘇會員も亦、當然一般的命令中に包含せられ、ラー・プラーターの總督ブーカレーリー（Bucarelli）によつて放逐の事業は行はれた。教父等は到る所に最大なる忍耐を諦めとを以つて恭順の態度を取つた。當時、會員の數は十一萬であつた。

ブーカレーリーの兵士が先づブウェーノス・アイレス及び當時南米に於ける唯一の圖書館を有する耶蘇會員の大學所在地コルドーバアルに侵入した時、教父等は放逐せられ、宣教區の歴史に關する資料たる可き書類は愚かにも破毀せられた。而も、特に第十八世紀に於いて彼れ等に關して多くの書籍が公にせられた。晩年耶蘇會員によつて異端を說く者と攻擊せられ、法王ベネディクツス十四世（Benedictus XIV.）によつて庇護せられた伊太利亞の古典學者ムラトーリ（Lodovico Antonio Muratori）の Il Christianesimo felice nelle Missioni di Padri della Compagnia di Giesu nel Paraguay. の佛譯は一千七百五十四年に現れ、佛蘭西の耶蘇會宣教師にして歴史家たるシャールルヴワー（Pierre François Xavier de Charlevoix）は Histoire du Paraguay, 1756. に於いて、又其の青年時代に、友人コールリッヂ（Samuel Taylor Coleridge）と共に、サスクウェハナ河畔に「全平等鄕」（Pantisocracy）を建設しようとする計畫を立てた英吉利の詩人ロバート・サウヂィ（Robert Southey）は History of Brazil, 1810-19. に於いて夫々之れに說き及んでゐる。ジード教授（Charles Gide）は是れ等の文獻に依據して其の Les Colonies communistes et coopératives, 1928. 中に此のパラクウェーに於ける耶蘇會員の「共和國」に就いて稍か詳細に述べてゐる。此の書の英譯は口、（Ernest F. Row）によつて行はれ、一千九百三十年に出版せられた。

五

開祖ロヨラ（Ignatius Loyola）によつて耶蘇會派に與へられた目的は、羅馬教會から歐洲の半ばを奪つた宗教改革運動に反抗し、法王に對する絶對的服從と教會の權力の爲めにあらゆる手段を盡して異端と戰ふに在つたのであるが而も、彼れ等は斯くの如き防禦的使命を以つて滿足しないで、加特力教會の爲めに新世界を征服するによつて同教會の蒙つた損失を補充しようとして異邦人に傳道を行ふことを其の目的として採用するに至つたのである。然しながら彼れ等は決して共産主義的新社會形態を設定せんことを提唱するものではなかつた。然るに、産業革命以後に於ける資本主義的社會組織の壓迫と紊亂とに對する不平分子の反抗は、新たなる幾多の共産主義的植民地計畫を産まなければ已まなかつた。是れ等のものゝ中には又、宗教的性質を有するものが存して居つた。是れ等の諸小宗派は加特力教に屬するものではなくして、其の殆んど總べては新教派であつた。其の或るものに在つては共産主義其れ自體には何等の關心も存しなかつた觀がある。而も、彼れ等は欣求淨土、厭離穢土に最もよく適合せる社會組織形態として之れ命向つたのである。彼れ等は新約聖書中に共産主義を是認するの章句を發見するに何等の困難をも感じなかつた。而して、自國内に於ける迫害と抑壓とは彼れ等を驅つて安住の地を自由の國北米合衆國に求めしめたのである。

此の種共同體の中、最も古いものは震教徒（The Shakers）の共れである。彼れ等自身は「基督再來信者聯合協會」（The United Society of Believers in Christ's Second Appearing）と稱してゐる。彼れ等は基督の再臨は一千七百七十年其の開祖マザー・アン・リー（Mother Ann Lee）を通じて起り、其の聖典を奉ずる者の間に持續すると信ず

る。此の協會の最初の指導者アン・リーは目に一丁字のない英國婦人ではあつたが、奇蹟を行ふ神秘な力があつたと言はれてゐた。かの女は未だ若かつたが、間もなく「マザー」と呼ばれるやうになつた。リーは迫害を受け、投獄されたが、かの女は一千七百七十四年に、其の夫、家族及び親戚、朋友の一團と共に米國に渡つたのである。ノルドッホフ（Charles Nordhoff）が震教徒を訪れた一千八百七十四年の頃には、彼れ等は七州に散在する十八の團體を有してゐた。而も、是れ等團體の各箇は更らに數個の「家族」（family）に分れてゐた。而して、各家族は事實上一切の金錢上及び財産上の關係に於いて、別箇の共同體であつたが故に、實際には五十八の團體が存在した譯である。是れ等五十八の家族は總數二千四百十五の人員と約十萬エーカーに達する土地を所有してゐた。即ち、其の人口　第十九世紀の第二四分の一に於ける五千に比し當時既に著しく減少して居つたのであるが、一千八百九十年には一千七百二十八人に減少し、一千九百〇二年の頃には殆んど一千人を起ゆることなく、其の後一千九百二十四年の報告に據れば、二百人以下と爲つたと云ふことである。是れ等のものの中、本山は「レバノーン山」（Mount Lebanon）であつて、一千七百八十七年、アン・リーの死後三年にして紐育州コロンビア・カウンティに設立せられたものである。此のレバノーン山講中（The Mount Lebanon Society）も一千八百二十三年には五百と六百の間を數へたのであるが、七十四年には三百八十三人に減つてゐた。

彼れ等は口頭の懺悔と獨身と財の共有を實行し、制欲と無抵抗と如何なる現世的統治にも關與せざるの教理を奉じてゐる。彼れ等に從へば、神は男女の兩性的存在である。神の像の如くに創造せられた男は又、本來兩性的性格を有するものであつた。兩性の分離は、アダムが侶伴を求めた時に起つた。神は此の要求を容れ、アダムから取つた肋骨を以つて女を造つた。これが男によつて犯された最初の罪である。原罪は禁制の果實を食つた行爲ではなくして、夫婦の契りである。一千八百三十三年に出版された Hymns and Poems for the Use of Believers. の中に歌はれてゐるやうに、彼れ等が樂園の土の上に置かれた時、神の造つた野の生物の中で最もさがしい蛇が這ひ寄つて奇妙な戲れをエバに敎へたのである。斯うした罪が犯されると直ぐにアダムは死んだ。さうしてサタンはアダムに化けた。エバは之れを知らなかつた。彼れ等の姦淫から人類は生れた。是に於いて乎、震教徒は結婚を以つて下位の存在に屬するものと看做し、紀潔と結合した獨身を以つて其の第一の戒律とする。敎祖アンは初め結婚して數兒を擧げたが、「レバノーン山」を開くに及んで、其の原理に從ふが爲めに夫との緣を斷つた。男女は全然別居する譯ではないが、別箇の仕事場に於いて勞作し、別箇の食卓に於いて食事し、宗教的集會に於いては離れて立ち、自己と同性の懺悔聽聞者を有するなど、兩性間の關係は細心に取り締られて居るに徴して稽ふるに、男女は別居せすして共同生活を營み、是れに由つて彼れ等の誓約遵守は一層稱揚せらる可きものとなるの觀があると說いてゐるジード教授の言は俄かに首肯し難いものがある。彼れ等は他の敎友派（Quaker）によつて彼れ等に依託せられた子女を養育してゐる。然しながら、是れ等の子女も生長して此の社會の制度に慣さるゝに至るものは甚だ稀少である。若い震教徒の多數が協會の外に去るのは、彼れ等が獨身の生活に耐へ忍ぶことが出來ぬからであると云はれてゐる。彼れ等の植民地は結局比較的年老いたもののみから形成せられることとなり、次第に衰微しつゝあるのである。而も、彼れ等は秩序正しい建全なる生活を送り、九十歳の高齢に達することは彼れ等の間に在つては普通であり、百二十歳の壽を保つたものすらあつたと傳へられてゐる。

震教徒の共産主義は彼れ等の宗教的秩序の一部ではあるが、實際に唯り家族にのみ及ぶものである。全體としての彼れ等の社會に於ける財産の共有は存することがない。而して、一つの家族が大なる富を所有し、他のものが比較的

貧乏なることがあり得るのである。彼れ等は自己を富ましめるが爲めに勞働することなく、偏へに共同體の所要を滿すが爲めに勞働する。彼れ等の所要は甚だ僅少であるから、共同體は其の消費する殆んど總べての物、即ち單に食料のみならず、衣料及び家具をすら生産することが出來る。「神に於いて生きる者は、他の者が貧困の生活を送りつゝあるの時、其の家屋と其の日常の生活を飾るが爲めに貨幣を費すの權利を有することがない」と彼れ等は思惟する。

此の團體は二人の教兄及び二人の教姉より成る會師職(Ministory)又は監督職(bishopric)と稱せらるゝ執行機關によつて最も獨裁的に統治される。其の首長は「指導長者」(leading elder)又は「指導役」(leading character)と呼ばれる。會師職内閣は會吏(deacon)を指命し、之れと協議して、彼れ等の諸産業部門の職長(caretaker)を指命する。長者は特に共同體の倫理的及び宗教的統治に關與することが多く、會吏は其の所有物の現世的經營に關與することが多い。震教徒は、協會の外に生活し自己の現世的事項を處理する新參者(Novitiate)、協會内に居住し其の私有財産を一時的に放棄しはするが而も何時と雖も娑婆世界に復歸し其の財産を回復し得る後進者(Junior)、並びに全然其の財産を放棄し其の身を永く震教會の任務に捧げた古參者(Senior)若しくは教班(Church Order)の三階級から成る。加人及び存續は懺悔室によつて警戒される。

六

ペンシルヴェニア州エコノミィ(Economy)のラツピスト(Rappist)又はハーモニスト(Harmonist)の植民地は、ウェルテムベルグのイプチングンに生れたゲオルク・ラップ(Georg Rapp.)によつて一千八百〇五年二月十五日に創設せられたものである。此の分離派の特異なる諸信仰は僧侶及び政府の迫害を招き、一千八百〇四年ラップは約六百の堅實なる信徒と共に、獨逸を去つて、ポルチモーア及びフィラデルフィアを經て米國に來たのである。移住者の大部分は農民と職人であつたが、彼れ等の中には亦教育ある人々もあつて、ラップの養子ライヘルト(Frederick Reichert)の如きは藝術的趣味豐かに、行政的才能に秀でて居つた。彼れ等は初め結婚を奬勵し、然らざるまでも之れを阻止することがなかつたのであるが、一千八百〇七年に深刻なる宗教的熱情が彼れ等の間に漲つて獨身生活に移つて行つた。前掲ノルドッホフが彼れ等を訪れて、「性交を取り締るが爲めには如何なる監督を行ふか」と問ふた時、其の受けた答は「何等の監督をも行はない。それは何の效果もないであらう。若し、人々を監督しなければならぬとしたならば、寧ろ之れを拋棄した方がいゝ。我れ等は常に我れ等の宗教的確信と祈禱及び基督教的精神の上に依賴して來た」と云ふに在つた。結婚と結婚生活とを差し控へようとする決心は比較的若い人達の間に先づ發したのである。教父ラップは斯くの如き禁慾主義の發達に反對ではなかつたが、之れを熱心に奬勵しはしなかつた。彼れは寧ろ斯くの如く嚴肅且つ困難なる事項に於いて輕率に行動しないやうに其の人民を戒しめた。之れと同時に、彼れは、獨身がより高く、より清淨なる狀態であると云ふことを自己の信念として表明した。而して、彼れ自身と既に結婚し居つた彼れの息ジョン・ラップ(John Rapp.)とは他に先んじて獨身の範を示した。自餘の人々は急速に之れに倣つた。其の後は最早ハーモニーに於いては結婚の行はれることがなく、子供の生れることがなくなつた。

獨身の一事を除いては、ハーモニストは決して禁慾主義ではなかつた。彼れ等はうまい食事を喫し、うまい麥酒の一杯を傾けた。其の成員の數が多く且つ彼れ等が若かつた其の歴史の初期に於いては、彼れ等は快活で陽氣な生活を送つて居つたのである。

彼れ等は其の最初の植民地の地位が選擇其の良しきを得たものでないと云ふ結論に到達し、一千八百十四年六月から十五年夏までに其の六千エーカーの土地並びに地上施設の一切を十萬弗に賣つて、ウォバッシ河溪谷なるインディア

ナ州ポーゾィー・カウンティに三萬エーカーの土地を購つて、玆に移つた。一千八百十八年には最初の成員と新しく加入した者の調和と平等とを大ならしめるが爲めに、各成員が共同の基本に寄附した所のものを記入して居つた帳簿を全員一致で燒き棄てゝ了つた。一千八百二十四年には、彼れ等の數は凡そ一千人に達したと云はれてゐる。此の年に彼れ等は第二回目の轉住を畫した。マラリア熱が彼れ等の植民地に流行して居つたが爲めに買手を發見するに暫く暇取つたのであるが、結局ロバート・オーエンが之れを買ひ取ることとなつた。彼れ等はペンシルヴェニア州のエコノミィを其の最後の植民地と定めた。重大なる艱難に遭遇し、多大の失費を蒙つたに拘らず、彼れ等が其の新しい村を發達させるに成功したことは、一千八百二十六年に彼れ等を訪れたザークセン・ヴァイマール・アイゼナッハ公ベルンハルト（Bernhard, Herzog von Sachsen—Weimar）の記述によつて親知することが出來る。（Travels through North America, during the years 1825-26, by His Highness, Bernhard, Duke of Saxe—Weimar Eisenach, 1828.）。然しながら、彼れ等の社會の平和は一千八百三十一年にエコノミィにやつて來たマクシミリアン・デ・レオン（Graf or Count Maximilian de Leon）と稱する人物、（正しい姓名はベルンハルト・ミューラー Bernhard müller）によつて攪亂された。單なる冒險家に過ぎなかつた彼れは巧みにハーモニストの信念を覆し、之れを現世的快樂に誘惑した。軈て分離は避け難いものとなつた。五百人は依然ラップに忠實であつたが、二百五十人はレオン伯に赴いた。一千八百三十二年三月の取り極めに從つて、少數黨は其の配分として十萬五千弗を受け取つて三箇月内にエコノミィを去ることとなつた。レオンと其の一派は十哩を隔てたフィリップスバーグ（Phillipsburg）に移り住むことゝなつた。彼れ等は前に共産主義的原理に基く一社會を建設したが、而も結婚を許したのである。彼れ等はハーモニストから受け取つた巨額の貨幣を極めて急速に浪費した。無法にも更らに多くの貨幣をハーモニストからゆすり取らうとして失敗した後、レオン伯は少數の仲間と共に小艇に乘じて紅河（Red River）河上のアレクサンドリアに逐電し、同三十三年虎列刺病に罹つて死んだ。

ハーモニストは其の人口が大であり、其の仕事が少かつた際には雇傭勞働を使用することがなかつたのであるが、而も、彼れ等の數が減少し、其の産業が發達するに至つて、賃銀勞働者は往々にして一人に對する十人の割合に於いて其の成員を超過し、遂には實際上地所、油井、及び種々なる鐵道、銀行並びに鑛山會社の株式を所有しつゝある資本家の合資組織となるに至つた。而して、エコノミィが遂に或る土地會社に賣却された時には、僅かに散在した少數の成員が殘存してゐたに過ぎなかつた。

七、

オハイオ州タスカラワス・カウンティ、ゾオア（Zoar）の分離派の共産團體も亦、南獨ヴュルテンベルグに發生したものである。多年に亘つて、此の教派の創設者等は其の國の政府と執拗な爭ひを續けてゐた。彼れ等は其の非國教的教理によつて政府の忌諱に觸れたのであるが、殊に彼れ等が其の兒童を僧侶によつて監督せらるる學校に送ることと其の若人を兵士として勤務せしめることを拒否せるに由つて、政府の反感を買ふ所が大である。彼れ等は罰金を課せられ、獄舍に送られ、而して村から村へと追はれ追はれて、遂に米國に隱れ家を看出さんと決意したのである。彼れ等は英國の富裕なる教友派の人々からの援助によつて其の渡航の費用を支拂ふことが出來、約二百人より成る最初の枝隊がフィラデルフィアに到着した。選ばれて指導者となつた者はヨーゼフ・ボイメラー（Joseph Bäumeeler 後には Bimeter と綴る）である。彼れ等は一千八百十七年十二月一日に最初の丸木小屋を建築した。少額の現金を支拂つたに過ぎない五千六百エーカーの土地はボイメラーの名儀で購入せられたものであつて、一口づゝ各構成員に割り當て

られ、而して彼れ等によつて自箇別に皆濟せらる可きことが協定せられてゐた。從つて、ヅォアの新村民は初め共産主義的社會を形成しようとする意圖を有するものではなかつた。然しながら、彼れ等の中には自己の努力によつて其の田畑に對して支拂を行ふことを困難とする力のない老人達が存して居つたが爲めに、一千八百十九年の初めに指導者等は協議の後、財貨と努力の共同體を確立しなければならぬことを決議した。而して、全團體の討議を經て、四月十五日に財貨共有の協定が調印された。ノルドホフが彼れ等を訪れた時、老いたる人々は彼れに「私共が共同體を形造らなかつたならば、私共は斷じて私共の土地の代價を支拂ふことは出來なかつたであらう」と物語つたと云ふことである。彼れ等は鍛冶工、大工及び建具工の仕事場を建設し、家畜を飼ひ、又、近隣の農民の爲めに勞作して少額の貨幣を獲得した。彼れ等は一千八百二十七年、其の所有地を通過する運河の開鑿工事の一部を二萬一千弗を以つて請負ひ、又、其の產物の多くに對して市場を確保した。幾許ならずして、彼れ等は其の資產上の抵當權を移し、更らに土地を買ひたして、七千エーカーの沃野を有するに至つた。彼れ等の初期の成功は前記ボイメラーの施備宜しきを得たるに負ふ所が甚々大である。History of American Socialisms, 1870. の若者ノイズ（John Humphrey Noyes）がヅォアを訪れたのは、ボイメラーが歿した翌週のことであつたが、村民は恰も羊飼を失つた羊の群れのやうに見えたと記してゐる。彼れは殆んど全く無教育であつたが、天賦の才能豐かな人物であつた。彼れは現世的及び精神的の兩方面に亙つて其の仲間を指導した。彼れが丈夫で居つた間は、一切の事は極めてよく進んだ觀があつた。彼れの氣力が衰へるに及んで、總べての事實は遲々として捗らなくなつた。

彼れ等は初め結婚を禁止してゐた。然しながら、彼れ等は十年乃至十二年の獨身生活の後、結婚に關する意見を變じ、其の禁止を取り消すに至つた。斯くの如き變化は、もう可成りに年長けたボイメラーが美しい少女と戀に落ちた事實に由つて生ぜしめられた。此の美少女は團體が彼れに侍せしめた所のものであつた。ボイメラーは、神は欣然として結婚を見ることがなく、唯だ之れを寬恕するのみであり、天國では「夫、妻及び子供は互に相知ることがないであらう」、「彼處には性の區別は存することないであらう」と敎へた。然も、彼れは遂に結婚して子供のある家庭を持つこととなつたのである。一千八百二十四年三月に改正憲法が採用せられ、二十八年から三十年に至る間に於いて、ボイメラー自身が妻帶して、結婚は默許せらるるに至り、一千八百三十二年には、此の團體はオハイオ州の法律の下に正式に法人となり「ヅォア分離派協會」（The Society of Separatists of Zoar）の名稱を取ることゝなり、新憲法は同じき年に調印せられた。財貨共有の協定が調印せられた頃には二百二十五人であつた此の協會員の數は法人組織となつて後幾許もなく五百人を超過した。ノルドホフが訪問した一千八百七十四年春には尙ほ三百名を有し、其の財產は一百萬弗以上に達してゐた。此の共同體が貧困であり、其の生存の爲めに苦鬪を續けて居つた間は、之れを構成する者の間に團體的精神が强固であつたが、其の富が增加するに至つた時、共同體を解體し其の資產を分配しようとする不平分子の努力が時々行われるようになつた。一千八百五十一年及び六十二年には前の成員によつて分配の訴訟がオハイオ州の法廷に提起されたが却下された。然しながら、團體解散の運動は一千八百九十五年、ボイメラーの後裔たるレヴィ・バイメラー（Levi Bimeler）の支持を受けて一層熾烈となり、三箇年に亙る討論の後、九十八年の年次村會は解散の動議を可決した。斯くて、尙ほ二百人以上を算してゐた殘存者の間に資產は分割せられた。各員に割り當られた高は凡そ一千五百萬弗であつた。（E. O. Randall, History of the Zoar Society 2nd ed., 1900.）。

八、獨逸の「靈感派」（Wahre Inspiration's Gemeinden, True Inspiration Congregations）はアイオワ州グヴェンボー

トの西七十四哩の地に共產團體を組織してゐる。「アマナ共產團體」（The Amana Society）と稱せられるものが是れである。「アマナ」の名は『雅歌』第四章第八節に基く。彼れ等は祗虔教徒（Pietists）であつて、其の中心はノルドッフの訪問した當時は婦人であつた。彼の女は神の直接の靈感によつて物語るものと想像されてゐる。是に於いて乎、彼れ等はインスピレーショニストと稱せられるのである。獨逸のアルメンブルグに在つて迫害を受けた彼れ等は一千八百四十二年に靈感によつて安住の地を北米合衆國に求めることゝなつた。彼れ等は初めバッファロー附近に、一エーカー十弗を以つて、約五千エーカーの土地を超つて移住し、其の植民地を Elen-Ezer と稱し、頗る繁榮に赴いたのであるが、土地の不足を感じて、同五十五年にアイオワ州に約二萬エーカーの土地を買ひ受けて茲に移つたのである。

彼れ等は最初共產主義的植民地を建設しようとする企圖を有することがなかつた。彼れ等の中にはなか〳〵の富者が居つて、共同資本に五六萬弗を寄附した者もあつた。然しながら、最初に移住した家族の中には、工場勞働に慣れて、農業生活を嫌惡する者があつた。彼れ等は是れ等のものに職を與へるが爲めに羊毛工場を建設するの必要に驅られた。之れが彼れ等の當面した最初の困難であつた。而して、仕事場及び工場の建設は唯り彼れ等が共同の努力と財源によつてのみ達成せられ得可きものであつた。

靈感の力は彼れ等の初期の指導者クリスチァン・メッツ（Christian Metz）及びバルバラ・ハイネヘン（Barbara Heynemann）に存在すると信ぜられた。其の長老等は靈感によつて選ばれた。アマナの共產團體は一千七百七十四年には一千五百の人員を有し、約二萬五千エーカーの土地を所有し、アマナ、東アマナ、中央アマナ、丘寄りのアマナ、西アマナ、南アマナ及びホームステッドの七個の村を形成して生活してゐたが、一千九百二十六年に於いても尙ほ一千三百八十五人を有し、農業及び各種の工業に從事して頗る繁昌してゐる。是れ等七個の村は凡そ一哩半を隔てゝ存在し、各々別箇の校舍、店舗、旅舍、及び工場を持つてゐる。各村は自己の事務を處理し、自己の帳簿をつけてゐる。然し、其の帳簿は年々アマナの本部に送付せられて檢査される。アマナの中央政府は總べての男子の成員の投票によつて年々選出せられる十三人の評議員（trustees）に委託される。評議員は一名の會長（president）を選擧する。評議員は又、監督及び職長を指名し、各員に其の仕事を割り當てる。是れ等の指導者等は翌日の勞働を協議し取り極めるが爲めに毎夕集會する。

各家族は別箇の家屋に生活する。然しながら、各村には大抵七個の共同食堂が建てられて居つて、茲に男女は「愚劣な會話とくだらぬ所業を抑止するが爲めに」別個の食卓で食事する。小供も亦、彼等だけの食卓に着く。彼れ等は煙草を禁ずることがない。女性は彼れ等によつて高く評價されることがない。彼れ等は女性を以つて基督教徒の心の平和に取つて危險なものと思惟する。彼れ等の最も令名なる著者の一人は「極めて危險大なる磁石且つ魔法の火として、婦人との交際から遁る可きこと」を男子に勸告する。彼れ等の婦人は烈じく勞作し、地味な服裝をし、總べての裝飾は禁ぜられる。頭髮を亂してゐることは禁制である。兩性を分離させるが爲めに大なる注意が拂はれる。男の子は唯り男の子だけと、女の子は女の子だけと遊ぶことが許される。彼れ等は結婚を禁止することがないが、されはと云つて、之れを奬勵することもない。かのバルバラ・ハイネマンすら、ソッツの記する所に據れは、かの女が若い男たちに餘りに友情のあり過ぎる態度で注目したが爲めに一千八百二十年に一時此の團體から除名せられるの憂目を見た。一千八百二十二年八月の頃には、惡魔は再びかの女を誘惑してランドマン（George Landmann）と結婚しようとするの欲望を抱かしめた。然しながら、神は斯くの如き處置が神慮に慄るものであることを示したので、彼れ等は其の目的を達することを得なかつたのであるが、後に至つて其の宿願を遂げることが出來た。總じて結婚は唯り、

新郎が二十四歳に達した後に於いて、評議員の同意を經た場合に限つて許される。而して、漸くにして結婚の日が到來した時、結婚式は此の最も樂しい日を寧ろ恐怖の日と化せしめるほどの嚴肅さを以つて擧行される。

ノルドッホフの記す所に據れば、彼れ等は大部分は農業上の勞働者から成る凡そ二百人の雇傭勞働者を使用する。是れ等のものは總べて皆獨逸人であつて、其の多くは家族を有してゐる。彼れ等は是れ等のものに家屋を給し、又、時には其の地上に數頭の家畜を飼育するの特權を與へる。職長の一人はノルドッホフに告げて曰く、三人の雇傭勞働者は其の成員の五六人に相當する仕事をするであらうと。斯くの如きは、彼れ等が其の頻々たる宗教上の會合に煩はされて落ちついて勞働することが出來ないのにも由るであらうが、概して共産主義的社會の人々が暢氣に生活を送る傾向があるのに基く所が多いものと認められてゐる。

九

ミゾーリィ州のシェルビィ・カウンティのベスエル（Bethel）の共同團體は、善魯西人カイル博士（Dr. Keil）によつて、一千八百四十四年に創立されたものであつて、オレゴン州ポートランドの二十九哩南に存するオーロラ（Ourora）は其の分派である。カイル博士は一千八百十一年に生れ、獨逸で小問物屋をして居つた。彼れは神懸りとなつた。彼れは又、磁氣をも商つて居つたらしく、之れを治療用に供した。暫く紐育に居つた後、ピッツバーグに渡り、茲で自ら醫者と稱し、又、幾分本草學に通じてゐることをほのめかした。彼れは又、人間の血で書かれた神祕な處方書を所有する旨を公言した。年三十にして彼れは一轉樣に逢着し、メソヂスト教徒となり、即時、神々しい儀式を以つて此の不思議な一卷を焚いた。而も、彼れは軈がてメソヂスト教を棄てゝ自己の一派を開き、其の周圍に大部分は獨逸人及びペンシルヴェニアの和蘭人から成る多數の信徒を集め、一千八百四十四年には曩きに述べたエコノミィのラップ教徒から分離したコンドデ・レオンの殘黨を併合した。恰度、此の頃、カイルと其の教徒は共産主義的植民地を樹立するの意圖を懷抱するに至り、斯くの如き目的の爲めにシェルビィ・カウンティルに二千五百六十エーカーの土地を購入し、而して彼れ等は之れに絶えず新たなる土地を買ひ足して軈がて四千エーカーを所有することなり、其の一部の上に漸次、酒造場、磨舍、製材工場、梳刷工場、羊毛工場並びに其の附近の農民によつて必要とせらるる總べての機械工場を設立して、町が出來上つた。軈がて百貨店も設置され、郵便局も政府によつて建設された。最初の建築物の中には教會があつた。カイルは彼れ等の俗界に於けると等しく亦精神界に於ける首長でもあつた。十年内に彼れ等の植民地は約六百五十の人口を有するに至つた。

カイルは更らに大規模の共産的社會を太平洋岸に建設しようとするの希望を抱いて、五十五年、低廉にして豐沃なる土地を求めて初め十乃至十二家族、總數八十人を以つて出發し、翌年六月にオーロラの開墾に從事したのである。新植民地の人口は、一部分は外部から補給せられ、一部分はベスエルからの移住により增大せられて、直ちに約四百に達した。彼れ等は諸カウンティに散在する約一萬八千エーカーの土地を取得し、ベスエルで行はれてゐたと同樣の産業の殆んど總べての外、林檎、總べての種類の梨、李、梅等の果實の栽培及び乾燥に從事した。創業の際から一千八百七十二年に至る迄、總べての財産はカイル博士の名儀になつてゐた。然しながら、此の年に、彼れは、自己の次第に年老いつゝあるを感じ、又、恐らくは或る重立つた人々に促された結果でもあらう、全財産の分割を行ひ、農夫には農場、大工には家屋と仕事場と云ふ風に、家族の各首長に適當な資産の一部に對する所有權證書を與へた。ノルドッホフは問ふて曰く、「あなたは總べての財産を分割して了つたのであるが、それならば、若い人達が成長した時に、あなたは是れ等の人達の爲めに何をなさらうとするのであるか」と。カイル博士は答へて云ふ、「なあに。初めには私

共は何んにも持たなかつたが、今では澤山に持つてゐる。それは皆んな何處から來たか。私共は稼いでそれを得、そしてそれを貯蓄したのである。よーし。私共は全く同じ樣に働いてゐる。私共は成長しつゝある塔の爲めに貨幣を獲得して之れを貯へて行くであらう。私共は總べてに取つて十分のものを有するであらう」と。是れに由つて觀れば、分割は單に形成上に止まるものであつて、村の經營は依然純乎たる共産主義的原則によつて行はれてゐることを知る可きであらう。

カイルの獨裁的支配は其の宗教上の教育と一致するものである。即ち、人は神の親的統治を模して共同體生活を形成す可きものである。斯くて、社會は總べての利害及び總べての財産を絶對に共同にし、總べての成員は一般的幸福と維持の爲めに忠實に勞働し、而して生活の資を一般的貯藏所から引き出す家族を典型として構成せられなければならぬ。然しながら、其の成員は自己の職業を選擇し、任意に之れを變ずることを許される。何等確定的勞作時間も存することがない。專制的支配者たるカイルは彼れ自身によつて選拔せられた年長成員四人を其の顧問とする。苟も眞に重大なる變革若しくは試みが企圖せられる場合には、問題は全共同體によつて討議せられ、斯くて又、一般的協贊なくしては何事も行はれることがない。各仕事場は其の職長を有してゐるが、是れ等のものは自然淘汰によつて其の地位に就くものであつて、最適者が自づから頭角を現して來るのである。此の共同體は時々外部の勞働者を使用する。總べては共同の利益の爲めに勞作すると等しく、總べては共同の貯藏から支給せられる。麥粉、牛酪等の食料品は欲せられるが儘の分量に於いて共同體によつて供給される。衣料其の他一般的財藏所に收められた物品は要求に從つて其の成員に交付される。彼れ等は外部の者との賣買は之れを記帳するが、共同體と其の成員との間の取引は何等記錄する所がない。彼れ等が外部との交易によつて貨幣を儲けた場合には之れを土地に投資する。

各家族は家屋若しくは大家屋の一に部屋を持つてゐる。各箇は小園圃を有して鷄を飼ひ、又、毎年、各家族に其の員數に從つて一定數の豚が割り當てられる。彼れ等は啻だに結婚を許すばかりでなく、之れを奬勵し、而して嚴格なる家族生活を維持する。カイルは宗教も自然の調和も、財産及び勞働以上の何物にも共同を教へることがないと主張する。

ベスエル及びオーロラの共同團體は主として其の創設者カイル博士の個人的威力によつて維持せられて居つたものであつて、彼れが一千八百七十七年を以つて逝くや、ベスエルは八十年、オーロラは八十一年に崩壞した。是れ等兩植民地の人口は其の解散の當時、略々四百であつた。

十

オーナイダ及びウォーリングフォードの共産團體は米國に發したものであつて、其の構成員は殆んど全部米國人である。其の創設者は曩きに一言した最初の米國共産主義史家ジョン・ハンプリィ・ノイズである。彼れは一千八百十一年にヴァーモント州ウィンダム・カウンティのブラットルボロオの良家に生れた。ダートマス・コレッヂを卒へ、法律の勉强を始めたが、間もなく神學に轉じた。先づ外國布教師となるの目的を以つてアンドーヴァー神學校(Andover Theological Seminary)に入り、後エール神學校に學んだ。ニュー・ヘーヴンに滯在して居つた間に、彼れは後にPrefectionism と呼ばれるに至つた救世の方法に關する新しい意見に到達したのである。これは一千八百三十四年のことであつた。彼れは直ちに、當時銀行業に從事して居つた其の父の住んでゐたパットニィに歸り、漸次其の周圍に少數ではあつたが、國内各地から信徒を吸收し、一千八百四十七年には凡そ四十人を教へることが出來た。彼れは固と共産主義を奉ずる者ではなかつたが、其の教義の發展と、フーリエ主義の共同團體ブルック・アァーム、ファランク

ス（Brook Farm Phalaux）及び同主義の機關週刊誌 The Harbinger の影響とが相合してパットニイのパーフェクショニストの團體を共産主義的生活に誘つたのである。軈て、四十七年から八年に亙つて紐育州マディソン・カウンティにオーナイダ共産團體が創立され、更らに其の信徒は四十九年に紐育のブルックリンに小團體を形成し、次いで、五十年コンネチカットのウォリングフォードに他の團體が起る等種々なる計畫が行はれたが、何れもオーナイダを中心とし、軈て、ウォリングフォードだけを除いて、他は何れも其の共同の中心であるオーナイダに合併して了つた。ノイズの初めの信徒は主としてニュー・イングランドの農民であつて、其の大部分は幾分の財産を持參した。ノイズ自身と其の教徒とは一千八百五十七年一月一日までに各々數千弗、總計十萬七千七百六弗以上を此の事業に投入した。而して、此の日に作製された此の共同團體の最初の棚卸年表は資産の總額が六萬七千弗を少しく超過するに過ぎないで、明かに四萬弗の資本が減少したことを示した。然じながら、此の時期に於いて彼れ等は貴い經驗を得て、有效且つ有利なる基礎の上に其の産業を組織することゝなつた。彼れ等は、獸夾、旅行鞄及び小鞄、雜巾箒把具、マツチ箱其の他種々なる小貨物、果實の罐詰及び瓶詰、絹織物等を製造した。是れ等の貨物は幾許ならずして其の聲價を高めることが出來た。其の後絹織物は彼れ等に不適當なるものとして廢止された。斯くて、一千八百五十七年には漸く五千四百七十弗十一仙の純利潤を擧げ、此の年から六十六年に至る間に兩共同體の純利潤は實に十八萬五百八十弗に達した。其の間に彼れ等は更らに土地を買ひ足し、一千八百七十四年にはオーナイダ附近に六百五十四エーカーウォーリングフォードに二百四十エーカーを所有するに至つた。彼れ等は又新たに其の員數を增加し、同年二月には二百八十三人（オーナイダ及びウイロプレース二百三十八人、ウォーリングフォード四十五人）を抱有することゝなつた。是れ等の人々の中には前記ニュー・イングランドの農民及び職人の外、醫師、法律家、僧侶、教師等多數の教養ある專門職業及び商人をも含んでゐる。彼れ等は多年に亙つて其の家内に外來勞働者を使用することがなかつたのであるが、其の繁榮が增加するに連れて、多數の部門に於いて徒僕及び手傳ひを雇傭することゝなつた。彼れ等は是れ等の人々に十分なる賃銀を支拂ひ、親切に之れを待遇した。

彼れ等の中には曾つて組合教會員（Congregationalist）及び長老派教徒（Presbyterian）、監督派教徒（Episcopalian）美以美教徒（Methodist）及び浸禮教徒（Baptist）であつた者が加つて居つたが、加特力教徒は一人もゐなかつた。彼れ等の仲間入りを希望する者は甚だ多く、一千八百七十三年には書面による二百の申込と之れと略々同數の自身出頭の申出があつた。彼れ等は又、當初からして出版物を利用する所が大であつた。オーナイダに植民する迄に、彼れ等は Paul not Carnal. 兩續刊物 The Prefectionists; The Way of Holiness. Berean. 及び The Witness. を出し、オーナイダに定住して後、直ちに Spiritual Magazine. を發行し、其の後 Free Church Circular. を出版することとなつた。後者は有名な Oneida Circular. の前身である、Bible Communism. も亦オーナイダ定住の初年に發兌せられたものである。「サーキュラー」は時には一週二回、時には三回發行されたが、後には一回となつたやうである。同誌は極めて良質の紙に優秀なる活版技術を以つて印刷されたものである。其の欄の初めには次の樣な注意が記されてゐる。「此のサーキュラーは總べての希望者に對して彼れ等が支拂ふと否とに拘らず送付される。それは一冊に就き少くも二弗を費し、又値する。之れを欲し又當然之れを手に入る可き人たちは三種類に區別される。即ち、第一は二弗、を支拂ふ餘裕のないもの、第二は單に二弗だけを支拂ふことの出來るもの、而して、第三は、二弗以上を支拂ふの力を有するものである。第一のものは當然無償で之れを取得す可きであり、第二のものは其の實費を支拂ふ可きであり、而して、第三のものは第二のものゝ不足額を補充するに足る實費以上のものを支拂ふ可きである。これが共産主

義の法則である。私共は之れを說き、而して之れを關係者の良識に委するの外、之れを强制する何等の手段をも有することなく、又、之れを强制せんとする何等の願望をも有することがない。私共は無代價で總べてに對して此のサーキュラーを提供するの危險を冒すのであるが、而も、無償の配本豫約は唯り、直接か若しくは本人に代つて申込む者に對して特別の權能を與へるによつてか、彼れ等自身の爲めに申込を爲す人々からだけ受け付けられるであらう。外國の豫約者は、加奈太に居住する者の外、其の豫約金と共に郵送料前拂金を送付しなければならぬ」。彼れ等は一千八百七十四年の頃には一週約二千部を印刷し、而して其の前年には此の事業に於いて六百弗を損失した。

彼れ等の事務は二十一人の常置委員によつて管理せられ、又、彼れ等は諸産業部門を四十八に分つて其の夫々に首長を置いてゐた。然しながら、其の組織が一見甚だ複雜煩瑣であつたに拘らず、彼れ等の統治は全く民主主義であつて、又、事實上よく運營されてゐた。

彼れ等パーフェクショニストは、基督の再臨はエルサレム破壞の時期に生じたと主張する。其の時に靈界に於ける最初の復活と審判が存した。而して、最後の神の國は其の際に天堂に於いて始つたのである。可視的世界に於ける神の國の表明は今近寄りつゝあるのである。其の接近は第二にして最終の復活及び審判に於いて始められてゐる。地上に於ける一敎會は今や天堂に於ける近寄りつゝある神の國と相應じ而して其の複寫及び具像となるが爲めに興起しつゝあるのである。靈感、卽ち完全なる神聖に導く神及び天堂との無障の交通は地上の敎會と天堂の敎會の間の結合、要素であり、又依つて以つて神の國が此の世界に確立せられ遍臨す可き力である。彼れ等は更らに「福音は罪業からの完全なる濟度の爲めに備へてゐる」ことを主張する。是に於いて乎、彼れ等はパーフェクショニストと稱するのである。彼れ等は言ふ、「罪業からの濟度は總べての他の改革によつて要求せられる基礎である」と。耶蘇基督は總べての害惡から――罪業及び死其の者から人々を救濟す可きことを提言する。然しながら、彼れは常に彼れ等の援助を受ける必要條件として彼れ等が總べての他のものを放棄しなければならぬこと、特に又、彼れ等が其の私有財産から免れなければならぬことを告げる。斯くて、彼れ等は共産主義が「復活の社會的狀態」であると主張する。彼れ等の共産主義理論は財産と等しく人間にも及んだ。彼れ等は恰も個人的財産所有權を排斥すると等しき强烈さを以つて一夫一婦制度の結婚を排斥する。彼れ等は一夫多妻及び一妻多夫の結合した複雜な結婚制度を實行した。共同體の範圍內に於いては、總べての男子は總べての女子の夫と考へられ、相互に雜然と同棲する。彼れ等は結婚制度を有しないではなくして、寧ろ彼れ等の間に在つては、「複雜な結婚が單純なものに代つたのである」と稱してゐる。ジードは、彼れ等の結婚を以つて、「複雜結婚」と云ふよりも寧ろ「集合結婚」と稱せらる可きものである、「斷續結婚」若しくは單に「自由結合」と呼んだならば、一層適切であらうと說いてゐる。ノイズは其の著に於いて言ふ「天國に於いては一人の女子の排他的所有を一人の男子に割り當てる結婚制度は存することがない」と。玆に『馬太傳』の第廿二章第二十三――三十節が擧示せられる。

斯くの如き結婚制度は必然共産主義の最も墮落した形態、卽ち性的混亂に陷ることを免れ得ないものであると想像される。然しながら、それは固と愛を訓練に服せしめようとするに出でたものである。男女が相互に相手方の承諾を得るのは、人目を忍んでの私語や求愛によるのではなくして、一人若しくは數人の一定第三者の介在を通じてゝある。彼れ等は若い者と年老いた者と云ふ風に年齡を異にする人々の配遇が得策であることを敎へる。彼れ等は、如何なる事情の下に於いても、其の好まない者の愛想を受け入れることを餘儀なくされることはない。彼れ等の社會は科學的原理の上に子女の繁殖を統制すると稱してゐる。ノイズは Essay on Scientific Propogation を著してゐる。兒

童は彼れ等が離乳する迄、母親の世話に委せられる。彼れ等は乳離によると共に、總保育所に移され、男女の特殊保育者若しくは世話人の注意の下に置かれる。保育所には嬰兒と收容するものと三四歳以上のものを收容するものとの二つがある。彼れ等は優れた學校制度を有し、其の青年の多くをコレッヂに送つて其の共同體の內部に於いて必要とせらるゝ專門的技術的教育を之れに授ける。婦人は投票を行ひ、事務を執り、而して、短髮、長ズボン、短スカートと云ふ如き、彼れ等の新しい自由に適合した衣裳を着用した。彼れ等の間には又、ノイズが其のコレッヂ時代に案出したと云はれてゐる「相互批判」(Mutual Criticism) が甚だ重要な制度となつてゐた。是れによつて此の共同體の各員は機に觸れて其の仲間の集會の前に現れ、時には全員により、又時には彼れを最も熟く知る者の中から選拔された委員によつて批判されることを申し出ることが期待されるのである。時には又、其の主體の懇請なくして批判が與へられる場合もある。

複雜結婚に對する反抗は夙に彼れ等をパットニィから驅逐したのであるが、一千八百七十九年には、之れに對する附近の僧侶によつて先づ發せられた非難の聲は甚しく強大なり、ノイズは遂に輿論を尊重して其の廢止を命じた。パーフェクショニストは、一夫一婦が獨身か、二者其の一つを選擇するに委せられた。これが共產主義的社會としてのオーナイダ共同體崩壞の信號であつた。翌八十年、同團體は「有限責任オーナイダ共同團體」(Oneida Community Limited.)の名の下に株式會社に變形した。彼れ等の多數は其の株式を賣却して去つたが、若い人々は、總裁(president)として留つたピーアポント・ノイズ (Pierpont Noyes) の指揮の下に殘つた。ジョン・ハンプリィ・ノイズ其の人は少數の忠實なる信徒に伴はれて加奈太に移り、一千八百八十六年四月十三日、ナイアガラ・フォールズで死んだ。

此の團體は其の共產主義的構造を拋棄したが、左に掲げる樣な規律を採用して極めて民主主義的平等主義的なる性格を保留してゐる。如何なる株主と雖も、社會資本の三パー・セント以上を所有することを許さる可きでない。勞作者には頗る高い賃銀が支拂はれ、經營者には比較的低い賃銀が支拂はる可きである。賃銀は三箇月の勤務の後には一パー・セント、而して其の後、十二パー・セントの最高に達する迄、各年一パー・セント增加せらる可きである。利潤に於ける配分は勞作者にも與へられ、前記の增給と結合して好調な年には二十二パー・セントまで賃銀を增加することを得可きである。一週一回の有給休日を認む可きである。あらゆる勞作者は十年の勤務の後には、株式を取得するの權利を有す可きである。斯くの如くして使用人の半ば以上は株式所有者となり、肉體的勞働者の或る者も亦然る可きである。此の共同體は一千九百十七年シェリルに移つた。

十一

以上はノルドッホフが親しく歷訪し周到に調査した其の當時合衆國に存在して居つた共產主義的社會の主要なるものであり、其の著の最初に記されてゐる六箇のものである。彼れの書が出版せられる迄は是れ等共產主義社會に關して知られることが極めて少く、事實殆んど何物も正確明瞭に報道にせられてはゐなかつたのである。米國社會主義者ヒルキット (Morris Hillquit) は其の History of Socialism in the United States, 1903. の第一章に於いて多くノルドッホフに依據して是れ等教派的共同團體に就いて物語つてゐる。

尙ほ以上の外、一千八百九十七年、露西亞から西部加奈太に渡來したものに露西亞の宗教的共產主義派の一部がある。Doukhobors 若しくは Doukhobors と稱せられるものが是れである。此の教派は第十八世紀の中葉に正統派教會から分離したものであつて、惡に對する無抵抗主義を敎へ、「人汝の頰を打たば、是れに他の頰をも向けよ。又、汝の上衣を奪ふ人には、下衣をも拒むなかれ」(『路加傳』第六章第二十九節、『馬太傳』第五章第三十九節)と說いたイエスの言

業の嚴正なる適用を基礎とするものである。彼れ等は當然あらゆる軍事的勤務に服することを絶對に拒絶する。彼れ等は、國内に在つても、シベリアに送られても、其の所信を屈げなかつた。而も、彼れ等は遂に其の教理を實行することの出來る國土を求めて移住するの許可を求めて居つたのであるが、九十七年に至つて漸く其の目的を達することが出來た。彼れ等は或る程度まで彼れ等の弟子であつたレオ・トルストイによつて常に擁護せられた。斷じて其の著作から如何なる利益をも受けることなく總べての印税を拒絶することが彼れの常例であつたが、彼れ等の移住を助けるが爲めに彼れは其の一千八百九十九年の大作『復活』によつて當然彼れに支拂はる可きものを受け納めて之れを彼れ等に與へた。彼れ等の數は凡そ一萬二千と稱せられてゐたが、加奈太に赴いたものは僅かに其の中四千に過ぎなかつた。彼れ等は數千エーカーの廣大なる地所を下附せられて、茲に眞の共同體として自己を確立した。然しながら、加奈太政府は、同國の法律が彼れ等をして共同の目的の爲めに土地の下附を受けることを得せしめないと做した。彼れ等は再び去つて、英領コロンビアに向つて進み、茲に土地の下附を受けた。英帝國内には强制兵役は存することがないので、之れが爲めに彼れ等は何等の困難をも有することがなかつた。總べての生命を尊重し如何なる動物をも殺すことを愼みつゝある彼れ等は其の主要職業の一たる園藝に於いて特に多大なる苦心を拂つてゐる。彼れ等の首長は代々ヴェレギン（Veregin）を名乘つてゐる。

一千九百二十四年の頃、合衆國及び加奈太に於いて二十六の共同體を有して居つたものにフッター講中（Huterian Brethren）と稱するメンナーナイトの一團がある。彼れ等の教會は夙く第十六世紀に於いてヤーコップ・フッター（Jocob Huter）の開いたものであるが、是れ等の獨逸人が初めて南ダコータに植民したのは一千八百七十四年のことであつた。彼れ等は最も徹底した共産主義を實行し、衣類すらも其の私有物と看做すことがないと稱せられてゐる。

然しながら、各植民地は夫々獨立に經營せられ、其の統治は經營者（Wirt）と精神的首長たる説教者の手中に存し、經營者は補助者を指名し、各個人に仕事を割り當てる。此の共産團體に關しては一千九百三十四年の Journal of Political Economy. 誌上にクラーク（B. W. Clark）の The Huterian Communities. が載せられてゐる。（Ibid., vol. xxxii, 357-74, 468-86.）

一千八百六十二年に其の資産を分割し、共産團體的生活を廢するに至つたものに、エーリック・ヤンソン（Eric Janson）によつて一千八百四十八年にイリノイのビショップ・ヒルに建設された瑞典の分離派の共産團體がある。ヤンソンは五十年に殺されたが、此の團體は農工業に精勵して繁榮に赴いた。而も、軈がて、離反分離を生じなければならなかつた。之れに關して研究したものはミッケルセン（M. A. Mikkelson）の The Bishop Hill Colony. (Johns Hopkins University, Studies in History and Political Science, ser. x, vol. i, 1892.) 及びヒルダール（Sivert Erdahl）の Eirc Janson and the Bishop Hill Colony. (Illinois State Historical Society Journal, vol. xviii, 1925-6, 503-74.) 等が存してゐる。

一夫多妻主義を以つて與えたモルモン宗教も亦概して共産主義者と看做される所であり其の歴史の初期に於いては集産主義的な傾向を示したのであるが、而も彼れ等は斷じて共産主義者ではなく、彼れ等がソルト・レークに到着すると共に、彼れ等は彼れ等の間に土地を分割し、軈がて地主から商人となり、其の多くは富裕となつたのである。（cf., Hamilton Gardner, Communism among the Mormous——Quarterly Journal of Economics, vol. xxxvii, 1922-3 134-74.）。一千八百四十二年から五十七年に亙つて凡そ十五年間存續し一時は二百以上の成員を有して居つた世界教派（Universalist）の牧會者バルー（Adin Ballou）によつて開かれたマッサチューセッツ州のホープデール共同體（Hopedale

Community）の如きも亦、共産主義的團體と看做すことを得ざるものであらう。（cf., Adin Ballou, History of the Hopedale Community, 1897.）

十二

是れ等種々なる共産主義團體は、かのオーエン流若しくはフーリエ流の非宗教的社會主義植民地の如く、革命的精神によつて鼓舞せられるものではなくして、神の言葉若しくはイエスの山上垂訓、或ひは『使徒行傳』に現れた原始基督教的共産主義の精神に對する服從心によつて激勵せられたものである。彼れ等に取つては、共産主義は現存社會の顚覆を企圖するものではない。共産主義は其れ自體目的ではなくして、後の世に備へる手段である。彼れ等は教政的及び父權的統治の强固なる混成的支配に服する。斯くの如きは其の創始者が生存して居つた間に於いて特に然るものである。而して、其の或るものは其の創設者の死と共に崩壞を來さなければならなかつた。總べての場合に於いて斯うした人物の死の直後が是れ等の共同體に取つて最も危險なる時期であつた。是れ等宗教的共同體の數は實に數百の多きに達したのであるが、其の殆んど總べては既に死滅して、僅かに三四のものが尙ほ餘喘を保ちつゝあるに過ぎない。是れ等のものゝ周圍には常に之れと競爭する社會秩序が存して居つて、其の大いさと其の承認せられた常習とを以つて彼れ等の上にのしかゝつてゐる。特に若い人々は更らに華やかなる外界の刺戟に心を引かれる所が多いのである。

彼れ等の共産主義的一般概念の根柢を成す基性的教義は、希臘哲學に發して羅馬の哲學者及び法學者の心胸に入り更らに又古代及び中世の基督教徒に取つて最も共鳴する所の大であつた自然法の其れであつた。自然法の基督教的表現は實にエデン樂園に於ける原始人の無垢潔白、其の墮落と之れより生じた人心の腐敗に於いて看出される。「自然法に依れば、私有財産なるものは存在することなく、あらゆる物はあらゆる人に共同である」（jure naturali omnia sunt communia omniqus.）。私有財産は人間を煩惱と唯物主義に釘着けにするが故に、吾人は其の放棄によつて惡に打ち克たなければならぬ。

然るに、基督教的共産主義植民地と略々時を同じうして亞米利加に存在した非基督教的若しくは非宗教的共産主義植民地の或るものに指導原理を與へたロバート・オーエンは、あらゆる現存の宗教を以つて虛僞であり、不德であり敗壞的であり、又、自然法則に反するものであると思惟した。（cf., Robert Owen's Opening Speech, and his Reply to the Rev. Alex. Campbell, in the Recent Public Discussion in Cincinati, to prove that the Principles of all Religiou: are erroneous, and that their Practice is in jurious to the Human Race, 1829.）。而して、其の後に於いて、「一の怪物が歐羅巴を徘徊してゐる」と稱せられた「共産主義の怪物は」實にマルクス主義を基調とするものであり、唯物主義的のものである。是れに從へば、自覺的勞働若しくは社會的勞働の系統的組織が、待ち設けられた官時代の救世主の名であつたのである。彼れ等が濟度の希望は宗教的理想ではなくして、唯物主義の巨大なる基石の上に安んずるものであつた。